NABAは摂食障害（拒食、過食、自己誘発嘔吐、チューイング、偏食、下剤乱用等）からの回復・成長を目指すための自助グループとして、1987年に発足しました。「いいかげんに生きよう」を合言葉に、仲間同士の安心・安全性を大切にしながら幅広いピアサポート活動を展開しています。

摂食障害のなかでも、アルコール・薬物などの依存症、鬱や引きこもり、自傷行為、盗癖、家族関係の問題などを伴って、中高年まで長く深く潜行するケースが非常に増えています。回復・成長のためには、これからますます既存の枠組みにとらわれない様々な資源のネットワークが必要になると私たちは考えています。

今回のイベントは各地で摂食障害の治療に取り組む専門機関や、地元で活動する自助グループなどと協力して開催します。地域で孤立しがちな本人・ご家族、またその援助に携わる方々とも回復・成長への希望を分かち合う場となることを願っています!

講　師　紹　介

北海道　大嶋栄子さん

NPO 法人リカバリー代表。精神保健福祉士。精神科ソーシャルワーカーを経て、2002 年に、さまざまな被害体験を背景に病気や障害に苦しむ女性への援助を目的に NPO 法人リカバリーを立ち上げる。「それいゆ」(フランス語で " 太陽 ") という名で三つの施設を運営する傍ら、市民や専門職向けの研修・講演をおこなう。

大 分　河村郁男さん

医療法人河村クリニック院長。精神科医。慶応義塾大学医学部卒業。その後、京都大学医学部附属病院精神科評議会で 研修後、大阪泉州病院に勤務し、アルコール依存症の治療に携わる。大分丘の上病院勤務を経て、平成 10 年河村クリニック開院。現在は薬物、ギャンブル依存症、摂食障害など依存症治療に取り組む。

秋 田　石川達さん

東北会病院院長、ワナ・クリニック院長。精神科医。北海道大学医学部卒業後、東北大学精神医学教室を経て、東北会病院に勤務。2006 年に院長に就任。様々な依存症や摂食障害の専門治療・家族教育プログラムなどに取り組む。現在はその他にも、日本アルコール関連問題学会理事、日本嗜癖行動学会理事なども兼任。

米山奈奈子さん

秋田大学大学院教授。保健師。東京都中野区保健所、東海大学健康科学部を経て 2004 年から秋田大学へ。保健所時代から AKK(アディクション問題を考える会) に参加し、1995 年から代表。DV 予防・自殺予防のための教育啓発活動や研究を行うほか、自助グループ支援にも力を入れ、「ドリームネット秋田 NABA」の世話人も務める。

島 根　山下陽三さん

明和会渡辺病院診療部長。精神科医。鳥取大学医学部を卒業し、島根県で山陰嗜癖行動研究会に参画し、アディクション啓発と酒害防止活動に協力。98 年 4 月鳥取に戻り、渡辺病院にて 98 年 6 月より週 1 回の「ドラッグミーティング」開始。05 年開設の「鳥取ダルク」の運営に協力し、13 年より鳥取アディクション連絡会共同代表。

神奈川　信田さよ子さん
（基調講演）

原宿カウンセリングセンター所長。臨床心理士。お茶の水女子大学大学院修士課程修了。95 年に原宿カウンセリングセンターを設立。様々な依存症、摂食障害、DV、虐待などに悩む本人やその家族へのカウンセリングを行っている。講演活動や執筆にも力を入れ、近著に『カウンセラーは何を見ているか』（医学書院）などがある。

小嶋洋子さん

アルコール・薬物依存症からの回復者。AC 本人。NPO 法人あんだんて、女性サポートセンター Indah（インダー）代表。10 代から依存症となり、東京の支援施設で回復。その後、横浜のアルコールリハビリ施設で職員として 13 年間務める。2012 年に横浜で、女性が安心できる居場所として Indah を開設。女性の依存症者の回復支援に携わる。

田上啓子さん

ギャンブル依存症からの回復者。NPO 法人ヌジュミ代表。当時ギャンブル依存症の回復施設がなかったため、薬物・アルコールの施設につながり社会復帰を果たす。女性のギャンブル依存症者への支援の必要性を感じ、2007 年に横浜で女性のための施設「ヌジュミ」を開設し、支援活動を展開している。ヌジュミは沖縄の方言で「希望」。

各回共通　鶴田桃工

摂食障害経験者。NABA 共同代表。精神保健福祉士。10 代で摂食障害を経験。大学卒業、就職し、専門医から「回復した」との太鼓判をもらうも、3 年後には食べ吐き万引き暴れるわで両親が家出し人生が極まる。その後「重症の鬼娘」として NABA につながるが、仲間の中で回復・成長し、1994 年には代表となり、仲間を愛し ?! 愛され ?? 居座り続ける。